

平成21年度第6回後見的支援推進プロジェクト会議録	
日 時	平成21年10月16日（金）午後2時～4時
開催場所	松村ビル別館（602会議室）
出席者 （敬称略）	<p><委員> 八島敏昭、坂田信子、川島志保、瀧澤久美子、阪野圭二、金子恵子、和田千珠子、深井浩治</p> <p><事務局> 松田米生、高木美岐、大木克之、小池美恵子</p>
欠席者	なし
開催形態	公開（傍聴者1名）
議 題	<p>1 後見的支援の仕組み（案）について ～具体的事例を基にした検討～</p> <p>2 その他</p>
議 事	<p><前回提示した仕組みからの変更点></p> <p>○事務局説明</p> <ul style="list-style-type: none"> 第5回でお示ししたあんしんキーパーとあんしんサポーターという役割に加えて、あんしんマネジャーという役割が入った。これは、これまでのあんしんサポーターと呼んでいた役割を担う（詳細は当日資料2のとおり）。 この仕組みでのあんしんサポーターは、定期訪問をして、安否確認も含めて情報収集を行い、あんしんマネジャーに伝える役割 後見的支援サービス提供運営法人の役割に「権利擁護・成年後見の普及啓発」を追加した。 <p><議事></p> <p><仕組み全体について></p> <ul style="list-style-type: none"> 3つの役割ができたことで、整理ができ、考えやすくなった。 すべてに「あんしん」がつくことでみんな一緒だと思ってしまう利用者さんもいるのではないか。 3つの役割と、成年後見人を含めて、この仕組みの目的が達成できるようになる。 <p><あんしんマネジャー・あんしんサポーターについて></p> <ul style="list-style-type: none"> あんしんサポーターがいれば、あんしんマネジャーは大勢いなくてもよい。 あんしんマネジャーの役割にある、「本人支援・エンパワメント」が一番大事な機能だと思う。 あんしんマネジャーはかなりベテランの福祉職、あんしんサポーターは、いろんなことをよく知っている人、あんしんキーパーは、一般の方というイメージ。 あんしんマネジャーの判断力と、個人のパーソナリティや力量によって支援に差が出るように感じる。支援ラインの統一化が必要。 本人の将来を考える後見的支援計画のようなものが必要だと思うが、それを

作成するのはあんしんマネジャーだと考える。

- ・ あんしんマネジャーは経験年数がないと信用を得るのは難しく、またこの仕組み自体も、スムーズに動き始めるには最低5年はかかると思う。
- ・ あんしんサポーターとあんしんキーパーは、地域の人が担うイメージがある。
- ・ あんしんサポーターがとても重要になると考える。一方、この仕組みが入る前から通所先や地域活動ホームの相談との関わりが深い人がいると、その支援者がキーとなる。その場合、あんしんサポーターがその人にとってのキーとなったり、関わる人のとりまとめとなるのはイメージしにくい。
- ・ あんしんサポーターは、通所先の人や、成年後見人、相談支援機関や区の人になってもよいと思う。
- ・ あんしんサポーターの役割が、本人情報を得ることのみであれば、これまで関わっている支援者だけで十分果たせるのではないかと。
- ・ あんしんサポーターになる人の想定がプラチナ世代とあるが、本人よりも先に年をとってしまうため心配。
- ・ 障害者だから、障害の関係者だけで固めようというのも少し息苦しい。市の福祉保健センターから人が行く、という「結構です」という人も、「おじさんがいくよ」という感じでいける場合もあるのではと感じる。
- ・ 見ず知らずの人があんしんサポーターになるのは想定しづらい。

<あんしんキーパーについて>

- ・ あんしんキーパーは、日常生活見守り人のような位置づけ。
- ・ あんしんキーパー同士を結びつける必要があるかどうか課題。
- ・ 精神障害のある人は、障害のことを近所の人に隠していることもあるため、あんしんキーパーが近所の人がいいのかどうかは疑問である。ピアサポーターの方がなるということは考えられる。また、まったく知らない人のほうが入りやすい場合もある。

<あんしんマネジャー・あんしんサポーター・あんしんキーパーの関係>

- ・ あんしんマネジャーとあんしんサポーターとの関係や、あんしんマネジャー関係法人、後見的支援サービス提供運営法人との関係など、それぞれがどういう位置づけでどう動くかということが見えない。検討すべき。
- ・ あんしんマネジャー、あんしんサポーター、あんしんキーパーがピラミッドのような形で本人を支える仕組みができると、「チーム支援」という風になって力強い。
- ・ 本人の情報をどこまで誰に集約する必要があるかという課題もある。
- ・ 情報はそれぞれの役割の中で持っていてよいと思うが、最終的にあんしんマネジャーや、あんしんサポーターのところでジグソーパズルの絵のように繋がればよい。

<成年後見制度との関係について>

- ・ 本人の状況、例えば成年後見人がついているか否かによって、この仕組みのそれぞれの役割の人がどのように関わるかは変わってくる。
- ・ 成年後見人がつくと、この仕組みから徐々に成年後見人にシフトしていくイメージなのか。この仕組みがあっても、成年後見人はきちんと身上監護をしなければならない。
- ・ 成年後見人がつけば、あんしんキーパーのみでよいのではないか。
- ・ 成年後見人にとっては、本人のエコマップがあり、本人の周りにこういう人がいる、ということがわかるだけでも動きやすい。

<事例の検討からの議論>

- ・ 今緊急で切迫した課題があるわけではないが、将来に対する不安はあり、今現在は地域で普通に暮らしている方、というのは大勢いる。
- ・ 親御さんが困り込んでしまって、本当にどこともつながっていない人もいる。
- ・ ご本人・ご家族にとってこれからのことを「一緒に考えましょう」という人が必要。
- ・ これからのことを相談できる人がいるというだけでまず「あんしん」感はある。
- ・ 相談を聞くだけでなく、その後、実際にアクションを起こせるか、将来の生活の場につなげられるかということに不安を感じる。特にご本人が40歳代になると、アクションを起こすことも必要。
- ・ 歳をとってくると、一步を踏み出すのが大変。
- ・ あんしんキーパーになる人と月1回しかあわなくても、安心できる場合もある。
- ・ 自力通所の方は、差し迫った問題があまりでてこないけれど、漠然とした不安を持っていて、支援者もなんとなく察知しているけれど、具体的に動けないままニーズがあることが多い。
- ・ 親が組み立ててきた生活で、親がいなくなるとその繋がりがみんな消えてしまうことになってはいけない。
- ・ 将来の生活を考える上で、一番基本になるのは住まい。選択できるくらいあると、悩みはかなり集約される。
- ・ 住まいがあり、成年後見の機能がきちんとあると、あとはその人がどういう生活を送るかということになる。
- ・ あんしんマネジャーは、例えばグループホームを探す、そして作るころまでやらないと意味がないのではないか。
- ・ そこまで求めるのは難しいとも思う。
- ・ 事例の成功体験を親御さんに情報として、示す必要がある。エコマップと一緒にライフマップをみて「なるほど、やっていけそうだな」とはじめてわかった。

資 料	<ol style="list-style-type: none">1 資料1 「地域であんしんして暮らすために、成人期の「本人」を支える仕組みを考える」2 後見的支援のそれぞれの名称と役割3 横浜生活あんしんセンター資料
-----	--